大草谷津田いきものの里 自然観察会

オニヤンマはいるかな？

田島正子（船橋市）

日　時：2024 年 9 月 15 日（日）10：30～12：00　天候：晴れ
参加者：16 名（大人 7 名子ども 9 名）
担当指導員：木下・遠藤・田島、参加指導員：岡田・相吉・内島

参加者 33 名の予定がキャンセル、で 16 名になり残念。中には、大草は初めてという親子の方もいらっしゃった。残暑が厳しく真夏のような天気となり、終了時の気温は 34℃。初めに大草で今の時期に観察できるトンボ、注意事項(水分補給、スズメバチ、マダニなど)を話した。全員に網と虫かごを貸し出し、班分けをせずに出発した。

今年は猛暑がいつまでも続き、虫の姿は少ない。年々減少しているオニヤンマはどうだろうと不安だったが、運よく下見時にオニヤンマが枝に止まったところを木下さんが捕獲してくれた。ホッ。ただ残念ながら本番では、飛んでいるところを一瞬観た程度で、じっくり観察することはできなかった。オニヤンマは、昔の記録を紐解くと、10 年位前までは多数見られていたようだ。減少の原因は定かではないが、産卵場所が少なくなったことに関係があるかもしれない。

観察会本番は、子どもたちとお父さん方が大活躍。お陰でたくさんのトンボを捕まえることができた。網を振ることに慣れていない女の子は、何度もチャレンジし２頭捕らえることができ得意顔。次から次にトンボを捕まえる名人級の男の子やお父さんも得意顔。皆さん、自分のペースでトンボ捕りを楽しんでいた。

カマキリがイモムシを捕えた瞬間を見て興奮する親子、泥まみれになりカエルをゲットした男の子、小さなイモムシを可愛いと愛でる女の子、ドングリやセミの抜け殻を集める子、よちよち歩きの子に生き物を懸命に触らせようとするお父さん。あちこちで歓声があがり、皆さん自由にワイワイと楽しんでいた。この自由度が大草の観察会のいいところで、私たちも一緒に楽しさをわかちあっている。

まとめの時間になり、「集合」と声を張り上げたが、夢中になっている子どもたちはなかなか集まらない。木下さんが飼育ケースの中のトンボを順番に解説し、子どもたちに指をチョキにしてトンボをはさんでもらい、じっくり観察してから逃がした。下見時に捕まえたオニヤンマを見せると、「大きくてビックリ」と、大人気だったことは言うまでもない。遠藤さんが用意してくれたオニヤンマなどの羽化殻も見てもらった。

観察したトンボは、オニヤンマ、オオアオイトトンボ、ナツアカネ、ノシメトンボ、シオカラトンボ、オオシオカラトンボ、ウスバキトンボ(本番直前の下見ではギンヤンマとマユタテアカネも見られた)。いつまでもオニヤンマが飛ぶ大草谷津田でありますように！

大きなオニヤンマにビックリ